

新しい日本目録規則へ

平成27年11月12日 図書館総合展フォーラム
国公立大学図書館協力委員会・日本図書館協会大学図書館部会主催
平成27年度大学図書館シンポジウム
「2020年のNACISIS-CAT/ILLを考える」

日本図書館協会目録委員
千葉大学附属図書館

木下 直

本日のお話

1. 新しい日本目録規則(新NCR)へ
2. 新たな目録法とその背景
3. 新NCRの基本的方針
4. 新NCRの特徴
5. 新NCRの改訂作業

1.新しい日本目録規則(新NCR)へ 30年ぶり改訂

- ▶ 1987 1987年版発行
- ▶ 1994 1987年版改訂版
- ▶ 2001 1987年版改訂2版
- ▶ 2006 1987年版改訂3版
- ▶ 2010 新NCR改訂方針の発表
- ▶ 2016 新NCRの規則案公開(予定)

目録をめぐる変化

- ▶ 対象資料の多様化
- ▶ 機械可読検索に対応
- ▶ インターネットなど情報環境の変化
- ▶ メタデータの相互運用性が求められる

カード目録時代から続く目録の標準を見直す
世界的な流れ

2. 新たな目録法の体制とその背景

概念モデル

FRBR Family (1997~)

*FRBR, FRAD, FRSAD

従来、明確な
意識なし

目録原則

ICP(国際目録原則)(2009)

ISBD統合版(2011)

パリ原則(1961)
ISBD(確立は70年代)

目録規則

RDA(2010)

新NCR(FY2017)

AACR2(1978)
NCR1987年版

新しい目録規則の基盤：FRBRモデル

Functional Requirements for Bibliographic Records

1997発表(IFLA) 2008小改訂

「書誌的世界」の概念モデル

目録規則ではなく、その基盤となるもの

実体関連モデル(E-Rモデル)に基づく

「実体(Entity)」: 独立した操作対象として認識

3グループ11実体

例: 著作、体現形(版)、個人、団体...

「属性(Attribute)」: 各実体に項目設定

例: 著作に対して: タイトル、作成者...

「関連(Relationship)」: 実体間の関係を管理

ハイレベルな関連(常に設定)

例: 著作と、作成者である個人・団体

その他の関連(特定の場合に設定)

例: 資料間の、改作・翻訳・複製等の関係性

FRBRモデル

* 実体ごとに
「属性」を設定

<グループ1の実体>
* 知的成果物を表す実体

<グループ3の実体>
* 著作の主題を表す実体

著作タイトル
著作の形式
著作の成立日付
...

著作 (Work)
(知的・芸術的創造物の単位)
例: 「源氏物語」

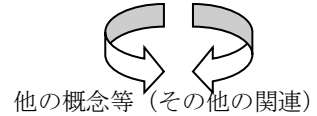
主題 (subject)

概念 (Concept)
物 (Object)
出来事 (Event)
場所 (Place)

表現形の言語
表現形の形式
...

表現形 (Expression)
(文字等で表現された単位)
例: 原テキスト、現代語訳A
現代語訳B、英語翻訳...

創造 (create)



実現 (realize)
* 翻訳等

<グループ2の実体>
* 成果物を作る主体を表す実体

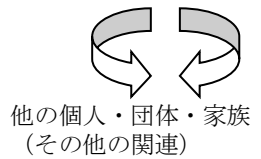
体現形タイトル
出版地
出版者
数量
...

体現形 (Manifestation)
(媒体が具体化された単位)
例: 単行本、文庫本、電子版

製作 (produce)
* 出版等

個人 (Person)
団体 (Corporate body)
家族 (Family)

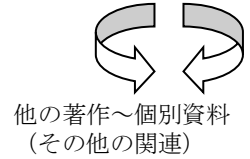
具体化 (embody)



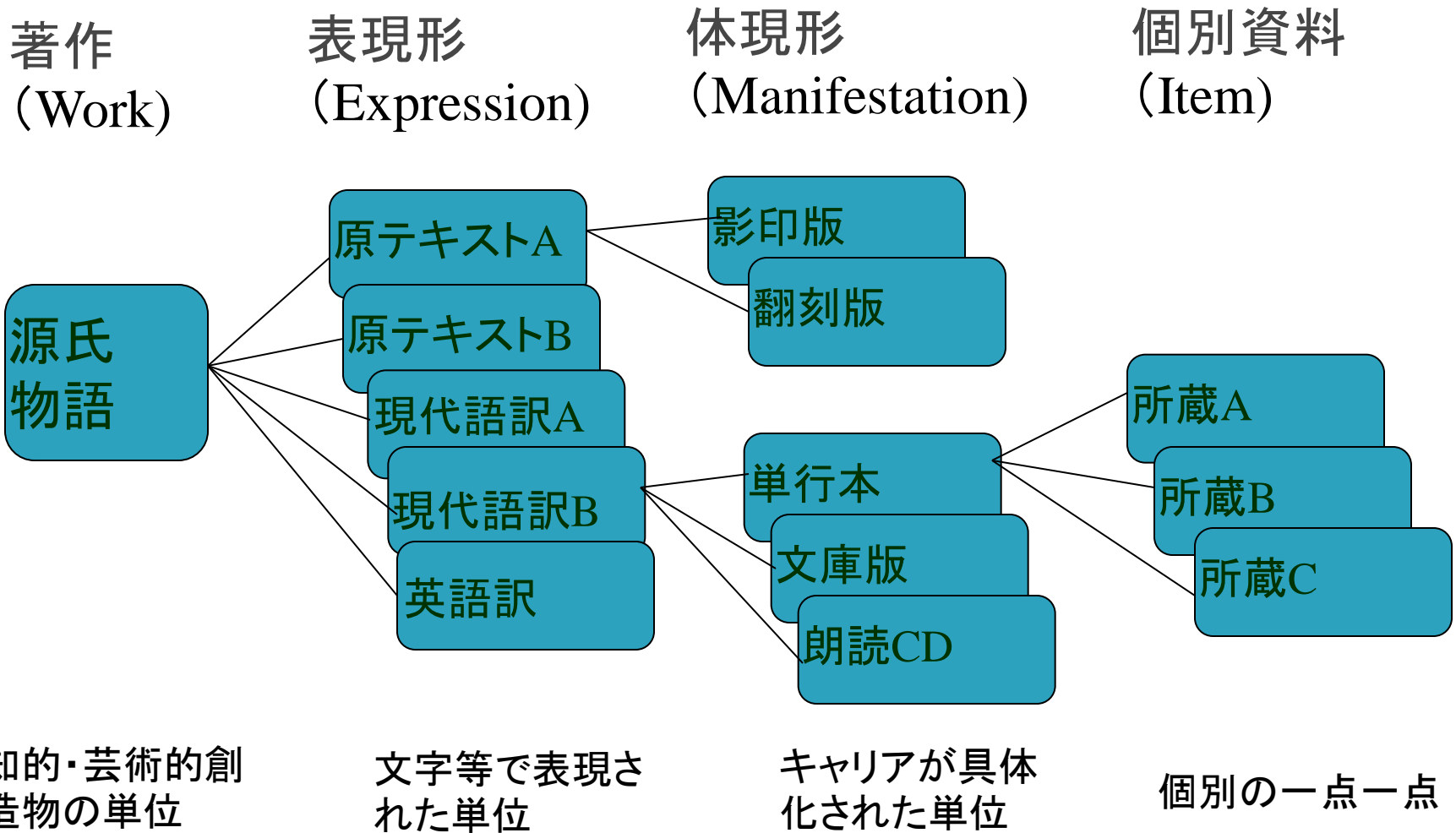
所有 (own)

個別資料 (Item)
(個別の一点一点)

例示 (exemplify)



FRBRの「グループ1」の4実体



特に、「表現形」の設定が新しい
「著作と版」の枠組みを見直し

コンテンツ(内容的側面)とキャリア(物理的側面)を整理

FRBRモデルに基づく目録規則の特徴

- ◆ 典拠コントロールを明確に位置付け
 - 「著作」「個人」「団体」等も実体として、諸属性を設定
 - 従来の規則では、「標目」「参照」の規定のみ
- ◆ 「関連」の重視
 - 実体の属性とは別立てで管理
 - 目録提供時のリンク機能に落とし込みやすい
- ◆ コンテンツとキャリアの問題を整理
 - 表現形の設定で、資料の構造把握を精密化
 - 著作・表現形を、これまでより重視
- ◆ 機械可読性の向上
 - モデルを基盤とした規則構造

RDA (Resource Description and Access)

- ◆ AACR2(1978～)の全面改訂
AACR2 2002 rev. 刊行直後から改訂作業開始
当初は「AACR3」→ 2005に名称変更
- ◆ 2010刊行
本体はウェブ版製品: RDA Toolkit
主題に関する部分は、未刊行
刊行後も、頻繁な改訂作業
Toolkitには、独仏西語版も搭載
- ◆ 2013春より、米英等で広く適用
2015.10 ドイツ国立図書館も適用
日本では、NDLが洋書に適用

RDAの規則構造：FRBRに密着

前半：実体の属性

序論	15p
セクション1：体现形・個別資料の属性	
1章 ガイドライン	15p
2章 体现形・個別資料の識別	133p
3章 キャリアの記述	88p
4章 入手・アクセス情報	5p
セクション2：著作・表現形の属性	
5章 ガイドライン	7p
6章 著作・表現形の識別	163p
7章 内容の記述	37p
セクション3：個人・家族・団体の属性	
8章 ガイドライン	11p
9章 個人の識別	60p
10章 家族の識別	12p
11章 団体の識別	75p
セクション4：概念・物・出来事・場所の識別	
12～16章（場所以外は未刊）	計 17p

後半：実体間の関連

セクション5：著作～表現形の主要な関連	
17章 ガイドライン	10p
セクション6：資源と個人・家族・団体の関連	
18～22章	計 55p
セクション7：著作と主題の関連	
23章（未刊）	
セクション8：著作～個別資料どうしの関連	
24～28章	計 24p
セクション9：個人・家族・団体の間の関連	
29～32章	計 13p
セクション10：概念～場所の間の関連	
33～37章（未刊）	
付録	計 204p
用語集	44p
索引	49p
ページ数は目安程度（初期の印刷版から）	

RDAの特徴

◆FRBRに密着した規則構造

=典拠コントロールを明確に位置付け、「関連」の重視、
コンテンツとキャリアの問題を整理、機械可読性の向上
資料種別ごとの章立てはとらず
すべての著作に典拠形アクセス・ポイント(AAP)

◆エレメントの増強と値の管理(統制)

注記や「その他の形態的細目」を細分して
エレメント化

転記によらない多くのエレメントに、語彙リスト
関連の種類を細分する、「関連指示子」

◆意味的側面と構文的側面の分離

エンコーディングや記述文法は、扱わない
意味的側面に徹した規則に

RDAの特徴(続)

◆(改めて)機械可読性の向上

◆相互運用性と国際化
英語偏重の緩和など

◆AACR2との継続性

書誌データの基盤は体現形

著作のAAPは、第一作成者のAAP+タイトル
(著者基本記入の考え方を継承)

条項レベルでは、継続したものが非常に多い

3.新NCRの基本方針

- ①ICP(International Cataloguing Principles)等の国際標準に準拠すること
- ②RDAに対応すること
- ③日本における出版状況に留意すること
- ④NCR1987年版とそれに基づく目録慣行に配慮すること
- ⑤論理的でわかりやすく実務面で使いやすいこと

「『日本目録規則』改訂の基本方針」(2013年8月)をやや変更した目録委員会の見解

4. 新NCRの特徴(1)

1. FRBR等の概念モデルに密着した規則構造

「第1部 総説」「第2部 属性」「第3部 関連」

2. 典拠コントロールの位置づけ

著作や個人を実体として捉え、典拠形アクセス・ポイントを構築

3. 著作の典拠コントロール

すべての著作に対して典拠コントロールを行って、典拠形アクセス・ポイントを構築するよう規定

4. 資料の物理的側面と内面的側面の整理

資料の種別について、表現形の種類を表す「表現種別」、体現形の種類を表す「機器種別」「メディア種別」を設定

NCR87年版のような資料種別による章構成は行わない

4. 新NCRの特徴(2)

5. 関連の記録

RDAに対応し関連の記録を重視する。詳細な関連の種別を示す「関連指示子」を設定

6. 書誌階層構造

NCR1987年版の書誌階層構造の考え方は維持する

7. エレメントの設定

注記に関する事項などを細分化しエレメントを設定する。RDAに存在するエレメントは新NCRにも設定

8. 語彙のリスト

RDAに準じて、情報源からの転記によらないエレメントの多くで、用いる語彙のリストを提示する

9. 意味的側面と構文的側面の分離

RDAと同じく規定対象をエレメントの記録の範囲と方法に限定し、ISBD区切り記号等の規定は行わない

4. 新NCRの特徴(3)

10. 機械可読性の向上

NCR1987年版に比べて機械可読性の高い書誌情報を作成

11. アクセス・ポイントの言語・文字種と読み、排列の扱い

日本語の優先タイトルおよび個人・団体・家族・場所の優先名称は、漢字仮名混じり。外国語については検討中。排列は扱わない

12. RDAとの互換性

RDAを適用して作成された書誌情報との互換性に配慮する。NCR1987年版とRDAの規定が異なる場合はRDAに合わせることを原則とした

13. NCR1987年版からの継続性

日本の出版状況や目録慣行から、NCR1987年版を採用したものもある。またRDAに準じて変更する場合は1987年版を別法とした

4. 新NCRの特徴(まとめ)

- ◆ FRBR, RDAの特徴が、ほぼあてはまる
= 典拠コントロールを明確に位置付け、「関連」の重視、
コンテンツとキャリアの整理、資料種別ごとの章立ては
とらず、エレメントの増強と値の管理、構文的側面と
意味的側面の分離、機械可読性の向上
- ◆ 「総説」「属性」「関連」の3部構成
属性の部:「属性の記録」「アクセス・ポイントの構築」
- ◆ 著作の典拠コントロール
恐らく、最も大きく「新たな作業」が発生
- ◆ 書誌階層構造の考え方は維持

新NCRの構成案(2015年10月現在)

章名の[]は、当面作成を保留している章
(RDAで未刊となっている部分に、ほぼ相当)

- ▶ 目録委員会報告
- ▶ 序説

- ▶ 第1部 総説
- ▶ 0章 総説

- ▶ 第2部 属性

- ▶ <属性の記録>

- ▶ セクション1 属性総則

- ▶ 1章 属性総則

- ▶ セクション2 著作、表現形、体现形、個別資料

- ▶ 2~5章 実体別(体现形、個別資料、著作、表現形)

- ▶ セクション3 個人、家族、団体

- ▶ 6~8章 実体別(個人、家族、団体)

- ▶ セクション4 概念、物、出来事、場所

- ▶ 9~12章 実体別([概念]、[物]、[出来事]、[場所])

- ▶ <アクセス・ポイントの構築>

- ▶ セクション5 アクセス・ポイント

- ▶ 21章 アクセス・ポイントの構築総則

- ▶ 22章~32章 実体別(著作、表現形、[体现形]、[個別資料]、個人、家族、団体、[概念]、[物]、[出来事]、[場所])

- ▶ 第3部 関連

- ▶ セクション6 関連総則

- ▶ 41章 関連総則

- ▶ セクション7 著作、表現形、体现形、個別資料の関連

- ▶ 42章 資料に関する主要な関連

- ▶ 43章 資料に関するその他の関連

- ▶ 44章 資料と個人・家族・団体との関連

- ▶ 45章 [資料と主題との関連]

- ▶ セクション8 その他の関連

- ▶ 46章 個人・家族・団体間の関連

- ▶ 47章 [主題間の関連]

- ▶ 付録(含:用語集)

RDAでは、セクション1を体现形・個別資料、セクション2を著作・表現形とし、それぞれに「一般指針」と複数章を置くが、新NCRでは1実体1章とし、「属性総則」を先頭に置く

RDAでは、著作・個人等の章で属性とアクセス・ポイントの両方を扱うが、新NCRではアクセス・ポイントの構築は独立した章とし、セクション5にまとめる。RDAにない「アクセス・ポイントの構築総則」も置く。

RDAでは、関連に6セクション21章をあてるが、新NCRでは構成を簡素化し、章の順序も一部変更する。RDAにない「関連総則」も置く。

5.新NCRの改訂作業

- ▶ 2010年9月 「『日本目録規則』の改訂に向けて」
目録委員会として作業に着手
- ▶ 2013年に国立国会図書館(NDL)収集書誌部と連携して改訂作業へ
- ▶ 2013年8月「『日本目録規則』改訂の基本方針」
目録委員会案⇒国立国会図書館修正案⇒再検討

目録委員会

▶ 委員構成

国立国会図書館 2名

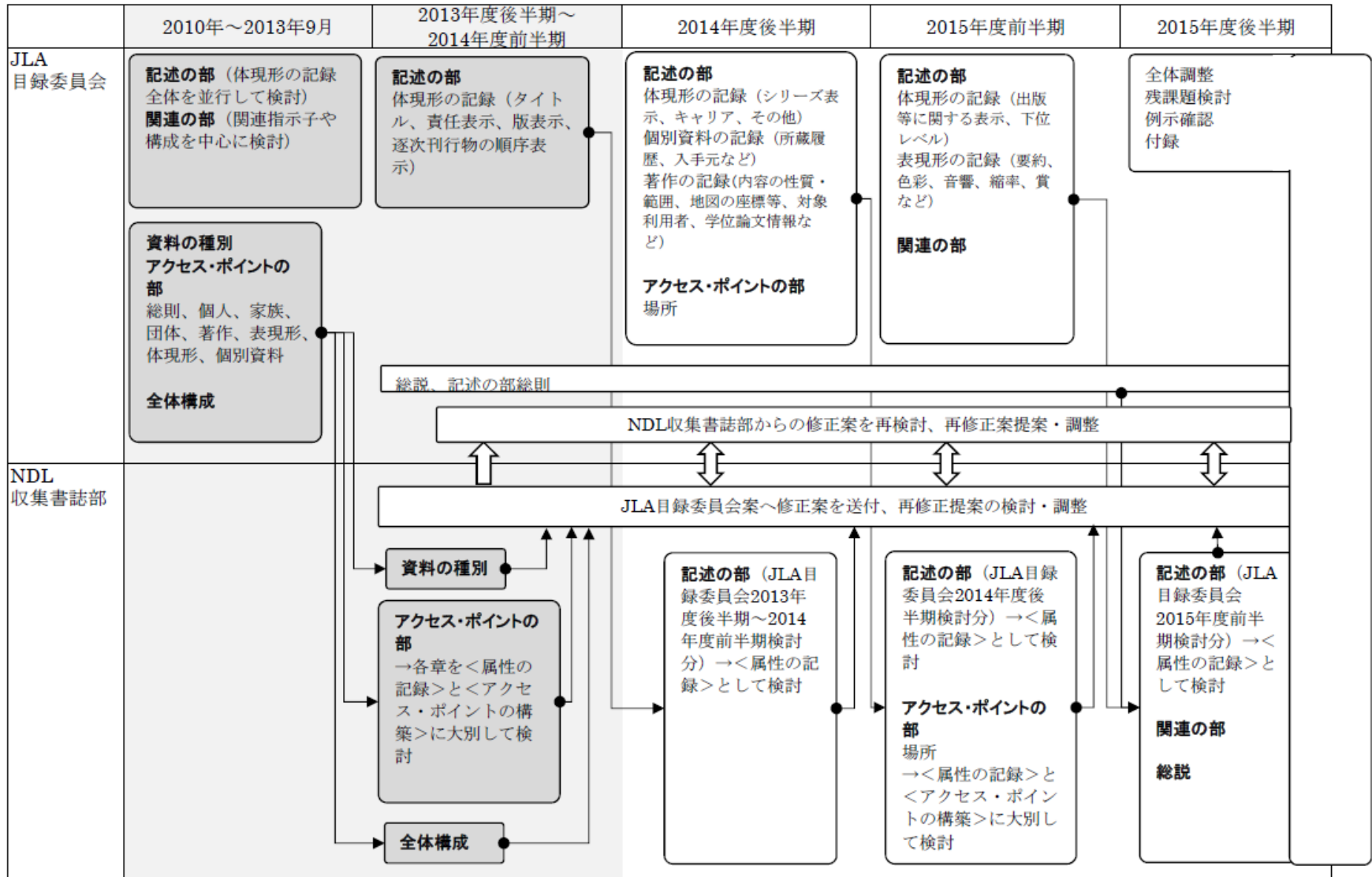
国立大学図書館 3名

私立大学図書館 2名

民間書誌作成機関 2名

その他 1名

事務局：日本図書館協会



網掛けは実施済み

* 主題関連 (属性およびアクセス・ポイント) については、「場所」を除き、現時点では検討を保留している。

新NCR策定スケジュール(2015年9月修正)

<http://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/mokuroku/schedule201509.pdf>

・2015(平成27)年度

- ▶ 条文案の部分的公開(目録委員会・NDL)

・2016(平成28)年度

- ▶ 新規則案(全体案)の公開(目録委員会・NDL)
- ▶ 国内で共通に適用できるように関係機関と調整(目録委員会・NDL)
- ▶ 新規則案に対する検討集会を開催(JLA及びNDL)
- ▶ 新規則案を適用した試行データ作成及び評価(関係機関・NDL)
公開(JLA及びNDL)
- ▶ 書誌データ作成機関向けの実務研修の実施(JLA及びNDL)

・2017(平成29)年度

- ▶ 新規則案の適宜修正(目録委員会・NDL)
- ▶ 新規則の公開(JLA及びNDL)
- ▶ 書誌データ作成機関向けの実務研修の実施(JLA及びNDL)

最新の情報は目録委員会のサイトをご覧ください。

**日本図書館協会**
Japan Library Association

検索 | [交通案内](#) | [お問い合わせ](#) | [English](#)

[日本図書館協会の見解・意見・要望](#) | [会員向けサービス](#) | [図書館雑誌閲覧](#) | [ログイン](#)

[ホーム](#) | [JLAについて](#) | [図書館について](#) | [部会](#) | [委員会](#) | [JLA会員](#) | [JLA出版物](#) | [事務局・事業](#)

[日本図書館協会](#) > [委員会](#) > [目録委員会](#)

目録委員会

- [日本目録規則（NCR）改訂に関する情報](#)
- [これまで（2014年度以前）の改訂等に関するお知らせ](#)
- [目録委員会への質問から](#)
- [目録関係情報](#)
 - [個人情報保護と日本目録規則（NCR）との関係について](#)
- [目録委員会議事録](#)

目録委員会

- 目録委員会
- 目録委員会議事録

東日本大震災について

東日本巨大地震と津波により甚大な被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げます。
一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

日本図書館協会理事長 森 茜

日本目録規則（NCR）改訂に関する情報

最終更新：2015.9.26

日本図書館協会目録委員会は、2010年9月に「『日本目録規則』の改訂に向けて」を公表し、日本目録規則（NCR）の全面改訂に向けての本格的な検討を開始したことを明らかにしました。その後、2013年に国立国会図書館（NDL）収集書誌部と連携して作業を進めることとなり、「『日本目録規則』改訂の基本方針」（2013年8月）に沿って作業を進めています。

全国図書館大会

ご清聴ありがとうございました